

町家ペンキ塗り替えボランティア活動 2002年 in HAKODATE

■ 2002年8月31日（土）、9月1日（日） ■



before



after



←左

(21) 加藤家住宅：1913(大正2)年、大町8-21

【塗り替えの配色】外壁下見板・軒飾りパネル：濃い目の青色、窓枠・柱・胴蛇腹等：白色、下屋庇・小庇：きわめて濃い青色の3色

右→

(22) 高田木材店・他：1917(大正6)年、弥生町8-14

【塗り替えの配色】外壁下見板・軒飾りパネル：淡い緑色、窓枠・柱・胴蛇腹等：白色、下屋庇・小庇：濃い緑色の3色



before



after



●塗り替え対象物件の選定理由：2年前からペンキの塗り替え対象建物を公募し、選定している。初年度は8軒、昨年度は1軒の応募があったが、今年度はゼロであった。そこで、この活動の原点に立ち返り、我々自らが物件を探さべく、西部地区をくまなく踏査し、下見板張り建物5軒を候補として選んだ。その後、加藤家住宅の所有者より、からトラスト事務局をつうじて塗り替えの打診があり、これも候補に加えた。結果は、1990年に初めてペンキ塗りをおこない、この活動の原点ともいえるべき記念すべき建物であり、人間でいえば一回りにあたる12年後に再び塗り替えるのも何かの縁でもあると考え、加藤家住宅を第一に選んだ。もう1軒は、1994年からトラストの助成金を初めて獲得し、塗り替えした洪田家住宅の1軒隣の高田木材店・他を選んだ。間にはさまれた岩崎家住宅店舗は数年前に修繕が施されてきれいに塗り替えられており、高田木材店・他を塗り替えることにより、文字通り3軒効果可並改善が現実のものとなることを期待される。

●塗り替える色の方針：加藤家住宅は、西部臨港線沿いに建ち、函館港に近く、眼前には緑の島があるなど、すぐ近くの港・海のイメージを表現するものとして、青色系を基調とすることを方針とした。また1989年のこすり出し調査の結果、14のペンキ層があらわれ、過去3度にわたり青系の色が使われていたことがわかっており、青系の色は加藤家住宅にとって歴史的な色でもある。とくに11層目の灰みの青緑色を参考にした。窓枠・柱・胴蛇腹等は白色に塗り分けてメリハリをつけ、下屋庇・小庇は外壁にあわせてきわめて濃い青色を選んだ。高田木材店・他は、隣の岩崎家住宅店舗の緑色系、1軒隣の洪田家住宅の黄色に調和する色として、従前の淡い緑色系を基調とした。他の部位の色については、加藤家住宅と同様に、窓枠・柱・胴蛇腹等を白色に塗り分けてメリハリをつけ、下屋庇・小庇は外壁にあわせて濃い緑色を選んだ。

●テレビの取材・番組の放送：TVH（テレビ北海道）の取材を受け、9月4日（水）の道新ニュース（17:40から3分余）の中で放送された。

【参加者】ペンキ塗りボランティア代表者・榎田利子、菊島和司、鈴木淳水（以上北海道大学大学院工学研究科建築設計学分野・修士課程1年）、種村雅也、西山健一（以上北海道大学大学院工学研究科建築設計学分野・修士課程2年）、酒井智浩、佐藤雅美、水上善夫、横山敏子（以上北海道大学工学部建築都市学科建築計画学分野・4年）、岡本浩一（北海道大学大学院工学研究科建築設計学分野・博士課程3年）、森下 潤（北海道大学大学院工学研究科建築設計学分野・助手）、吉本隆洋、岡比健一、木村直人、仲田義徳、西谷直人、松原昭人（以上函館工業高等専門学校・学生）、藤澤雅吉（函館工業高等専門学校・教授）、田原壮一、山口朋子、横田典昭（以上立命館大学政策科学部・学生）、宮崎 俊（立命館大学政策科学部・博士前期課程）、太田誠一、山本真也（以上元町倶楽部）、藤 有尚（函館からトラスト事務局）、岡部圭介、中村幸子（以上小童工務店）、片谷美子、松本英樹、奥津世男（以上一般参加）、以上20名

【協力者】加藤（建物所有者、基金+お金の差し入れ）、高田（建物所有者、基金の差し入れ）、道庁職員（函館高等学校のボランティア手配、女子学生の宿泊受け入れ）、神小童工務店（足場の手配）、日本ペイント販売北海道支社・支店長（ペンキ塗料の手配）、関有崎十河内菓子（足場の交渉、ハケ等ペンキ具具の保管、輸トラック）、太田誠一（対象建物所有者の承諾、所有者との色の相談・決定、男子学生の宿泊受け入れ）、山本真也（配色への助言）

※以上敬称略